

~~~~~

# Action Plan (Japanese)

## 2025-2026 Invitation Programme for Japanese Teachers to Republic of Korea

~~~~~



Group A

活動の振り返り



①学校訪問

サムソン女子高校は、国際的な視野を持つ人材の育成や、大学と連携した探究的な学習、キャリア教育に力を入れていた。「ファッションと美容」というテーマで文化授業を行ったが、生徒の意欲的で開放的な雰囲気が印象的であった。ポモク小学校は、国際バカロレア（IB）候補校として、多文化教育政策学校に指定され、グローバル人材の育成と多様性を尊重できる社会を目指して教育を行っている。地域と共に存する教育環境の構築を目指し、地域人材を活用して地域の文化や自然について学ぶ機会を作り、児童自らで企画して実行するプロジェクト学習も行っていた。学校が地域と積極的に関わっており、自校のコミュニティ・スクールの取組と重なる部分が多くかった。学校の施設、設備が充実しており、教師の業務改善も進んでいた。

②日韓教師対話 25周年記念フォーラム

韓国の教員3名と一緒に日本の教員を代表して発表を行う機会を得た。これまでの交際交流の経験を通して「連帯と協力」をどう捉え実践してきたか発表するとともに、両国の教育の課題について意見交換を行った。韓国の先生方とのグループセッションでは、日韓の教育の類似点や相違点について話し合った。一教員としてできることも見つかり、自校で実践したいと思った。また、国際交流についての情報交換や、今後の交流について具体的に話し合うことで帰国後の活動がイメージできた。

③教育施設、文化施設の視察と文化体験

開所したばかりのデジタル技術を使った進路教育の構築施設である「クムキオレ進路職業体験センター」では、AIによるキャリアカウンセリングや診断が可能で、ゲームのようなシュチュエーションで選択回答し、自分の強み（長所）を分析しながら、実現可能な進路が提案される。子どもたちのキャリア教育に役立つと感じた。城山日出峰（ソンサンイルチュルボン）と済州世界自然遺産センターを訪問し、雄大な自然美と地質的価値を併せ持つユネスコ世界遺産に感動した。4・3平和記念館では、事件の発生から終息までの経緯を、写真、文書、映像、証言などを通じて、犠牲者の視点から理解することができた。海女博物館では、実際に海女の方から話を聞く機会を得て、平和の島「済州島」の理解を深めることができた。

★研修を通して

日本教職員団60名がワンチームとなり、プログラム全体を通して、韓国の教育制度や文化についての理解を深めることができただけでなく、活発な意見交換を通して、教育現場における共通の課題や互いの良い点を発見し、大変有意義な交流ができた。同時に、日本の教育の良さを再認識し、ユネスコの理念である「考え方はグローバルに、実践は地域で」の下、参加者一人一人が「チェンジメーカー」となり、この研修で得たものを全国に広げ、進化させていくことを期待している。本プログラム開始から25周年、日韓国交正常化60周年という、両国にとって記念すべき年に、この歴史ある交流の一員となれたことを大変光栄に思うとともに、関係するすべての皆様に心より感謝申し上げたい。



アクションプラン

①市内校長会での研修報告

8月27日、四国中央市校長研修会にて本プログラムでの学びを共有し、校長として国際理解教育・平和教育をどう進めていくか協議する。

②本校の教職員向けの研修

8月26日の職員研修で、韓国の教育事情や派遣で得た知見を報告し、マンデ小学校との交流をはじめ、今後自校ができるることを協議する。

③校長講話の実施

10月14日の校長講話で、全校児童に韓国的小学校の様子や文化について紹介するとともに、クイズ形式で異文化理解を図る。

④ウォンジュ市マンデ小学校とのオンライン授業と対面交流

マンデ小学校の先生が8月7日に来日し、本校で交流の日程と具体的な内容について協議した。9月から3回のオンライン交流と10月以降の2日間の日程での対面交流（本校5年生との交流活動と四国中央市内の観光とホームビジット）を行う。

振り返り -Reflection-

① 文化授業(三聖女子高校・甫木小学校)

三聖女子高校では、日本のファッショントや美容についての授業を行った。日本でとり入れられている骨格診断などを紹介すると、興味を持って取り組んでくれていた。質疑応答でも、日本へたくさん質問がでた。日本の生徒が韓国のファッショントや美容に興味があるように、韓国の生徒も日本のファッショントや美容に非常に興味をもっていることがわかった。

甫木小学校では、福笑い、けん玉、コマ回しの体験授業と折り紙で紙飛行機を作る授業を行った。どちらの授業でも、うまくいくまで何度もチャレンジをしていた。できたときにはとても嬉しそうな笑顔を見ることができた。

児童・生徒の『知りたいと思う心(探究心)』は共通で、互いの文化を交流することで、より魅力ある授業・学校を作ることができると感じた。



② ホームビジット

ホームビジットでは、濟州島の名産である黒豚を堪能させてもらい、その後、経営されているカフェでフレーバーコーヒーをいただいた。ともに、非常においしく、その理由を聞くと、「濟州島は水がとてもきれいだから」ということであった。

研修で訪問した施設では、最先端の教育・技術を取り入れながらも、敷地内にみかん畑があったり、**自然と共生**していることが印象的であった。

③ 食文化

キムチ、サムギョプサルなど韓国の食文化に加え、黒豚やミカンなど濟州島ならではの食文化も体験することができた。また、食事マナーなどについてインターネットを通じて得た情報を、現地の方に聞くと、捉え方には差があった。改めて、**現地調査の重要性**を感じた。

最も印象に残った食べ物は、「ホンオ(ガンギエイ)の入ったチジミ」で、非常に刺激的な味だった。



アクションプラン

① 勤務校にて報告会の実施

2学期の全校集会で、本プログラムで得た知識や経験を、全校生徒および教職員に向けて報告会を実施、共有する。

特に、国際交流の重要性・教育の多様化、これからの中学校において必要な力の育成について、重点をおいて報告を行う。

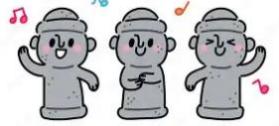
② 生徒間交流の実施を計画

現時点では、どのような方法・目的、時期など具体的な内容は未定ではあるが、本プログラムで得た多くの学校関係者の方々とのつながりを大切にし、オンライン交流など、継続的なコミュニケーションを図る方法を模索する。

また、ソウル特別市教育庁国際共同授業への応募も視野に入れ、交流時期などを計画する。

③ 交流の輪を広げる

本プログラムで得た知識や経験を、自校だけで留めることなく、市内の他の中学校や教育関係者とも情報を共有し、報告会や合同交流企画など、交流の輪が市や県全体に広がるような企画を検討する。



活動の振り返り



学校訪問

見えた部分は断片的なものであったかもしれません、2つの学校を訪問し、韓国は教育にお金をかけているということを感じることができました。

- ・1クラスの生徒数が少ないこと
 - ・外部の専門的な講師を呼び、授業や活動が行われること（朝のスポーツの時間や1週間の体験的授業）
 - ・給食が充実していること
 - ・校舎内の環境や設備にこだわっていること
- 幸せな学校とは、生徒・教師が幸せであること
教師の幸せは、「時間的余裕」や「生徒の充実した顔」から生まれてくるなど感じました。



自県・自國への興味

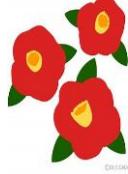


濟州島と沖縄県は気候や自然環境、植物が似ており、親近感を抱いていましたが、4.3事件について学ぶことで、唯一の地上戦が起きた沖縄戦と重なり、県民が当たり前に捉えていた「沖縄戦」や「基地問題」について自分の言葉で理解したいと強く感じました。また、世界遺産や海女さんについて知識を学んだり、文化や教育、食べ物や思考などに触れたりすることで「違い」は豊かさであり、「共通点」は繋がりだと感じることができました。改めて自県や自國について興味をもつきっかけにもなりました。

出会い（共同体を出て、自分とは異なる他者と会う）

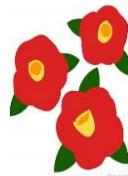
学校現場を回るプログラムや、韓国の教員の方々と対話をする機会は個人旅行ではできない貴重な経験となりました。計画や準備、受け入れ校の方々、運営に携わっていただいた方々には大変な苦労があったと思いますが、このプログラムのおかげで生きた学びを得ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。また、国内様々な県の先生方とも交流することができ、学校現場で働く「同志」としての繋がりができました。普段過ごしている共同体から出ることで出会えた、自分とは異なる他者や、場所。これからも勇気を出して「出会い」を広げ、その出会いで得た学びや感じたことを県や国問わず、職員や生徒達へ伝え、その連鎖になれるような存在になります。この気持ちを忘れず教員として学び続けます。

アクションプラン



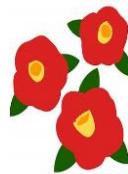
体験内容を生徒に共有

学級の生徒と共に研修で学んだことの壁新聞を作成中。夏休み明けに生徒全員が見える場所へ掲示を行う予定。



訪韓研修で学び得たことを教職員へ共有

学校の職員だけでなく、地区の2年目研修が行われる際に教育事務所と連携し、地区の先生へも共有していく。



日韓交流校の開拓

交流校の先生と連携をとり、生徒同士互いの文化や言葉、流行のものなど自県・自国の身近なことから交流させる。

振り返り

学校訪問

- ・サムスン女子高等学校
生徒が主体的に学び、楽しさを感じられる授業が行われていました。
(日本の和菓子づくり、石鹼シャンプーづくりなど)
- ・ポモク小学校
児童の学習環境や職員の労働環境が整っており、地域に根差した教育が行われていました。
小学3年生と七夕飾りを作りました。日本語や日本の文化に興味を持っている児童が多く、楽しく交流ができました。



ホーム ビジット

小学校5年生のお宅へ訪問しました。濟州島の豊かな自然環境と教育環境のため、韓国本島から引っ越してきたそうです。ハルラ山が望める屋上があるお宅でした。韓国語、日本語、英語の三か国語を交えながら交流をしました。いとこの中学校1年生の男の子は日本の文化が好きで、日本のアニメを通して日本語を勉強しているそうです。夕食は濟州島名物のサムギョプサルをいただきました。暖かく迎え入れて下さり、充実した時間を過ごすことができました。

日韓教師 対話

濟州島の自然に触れ、濟州4.3平和記念館や濟州海女博物館で韓国の歴史について学び、実際に韓国の先生方と交流することで、これまでと異なる視点を持つことができました。教育現場での取り組みや課題を直接韓国の先生方から聞くことができ、貴重な機会となりました。また、韓国語で少し会話をしましたが、言語を学ぶ楽しさも改めて感じることができました。日韓国交正常化60周年の年に本プログラムに参加できたことを光栄に思います



職員向け報告会

- ・プログラムに参加して学んだことを職員会で共有する
- ・文化授業の内容、韓国の生徒たちの反応を共有する
(サムソン高等学校、ポモク小学校)



生徒向け報告会

- ・韓国の文化や伝統などについて授業で紹介する
(異なる文化についての理解を高める)



海外研修 “Change Our Mindset”

- ・異文化交流の意義や魅力を伝える

目的

- ・国際的な視点から日本について考える
- ・異なる文化に対する理解を深める
- ・文化や歴史について学び、社会問題や生活環境などについて理解を深める

韓国と、もっと仲良くなりたい

飛び込んでみる	韓国語と日本語	島に生きる	だれもに優しい社会	さあ、これから！					
韓国行きを決めた。 国内の学校と、もっとつながる。  つながりのある人がいた。	韓国とつながる。 同じ釜の飯、同じチムジルパン。  4・3事件の追悼をしている地域、海女の出稼ぎを記録していた地域があった（大阪）。	ドラマや音楽を聞いていても、上達しない。（悩み） もっと頑れる通訳さん。私たちの拙い授業も上手に笑顔で翻訳。 済州語での詩の朗読が素敵だった。大切に守られてきたことばは、言語を超えて胸をうつ。 Yuka Kaino やっぱり、文化の理解のためにはドラマも音楽も重要だ！ ドラマを見ていたから、すんなり理解できた光景もあった。（トイレ、食べ方、軍人さん・海女さん） 韓国の英語教育に脱帽…ちょっと気になる母語の使いこなし（国語教師ゆえに）。 日本の文化（マンガ・アニメ・音楽）は、あつさ壁を越えていった！ Yuka Kaino	心配するより、スマートフォンに漬った。 翻訳の裏、先生方のスピーチの裏には、深い日本文化・慣習への理解があつた！ 韓国語だけではない。英語も。日本語磨きも大切だ。 	過酷な労働。家計を支えるため、妊婦でも海に入る。日本に出稼ぎにも来た。 海女の伝統文化 娘にはさせたくない 徴兵に行かせたくない。行きたくない。 日本の海女、日本の海との共通点	「海の中が暑い」…海女でなければわからない、海水温の上昇。 継承 緊張が走れば、防衛の最前線になる。だから街のあちこちに軍服の人がいる。 「行く」と教える。教育の責任は重い。 自然とともに生きてきた	こどもを見守る学校 だれもが居心地がいい空間 大人もこどももクールダウン 空間を分ける工夫 空間も仕事も分ける 空港にもあった、クールダウン部屋 SDGsの視点 ユニバーサルデザインされた施設・教室環境	地域に開かれた学校 フェンスを取り除く 物理的・心理的にフラットさを追及する そうするための努力 相互理解 場所を確保すること やることを明確にすることの大切さ 私は何をするの？ 選ばれる学校 IB校 ユネスコスクール	「違い」より「同じ」大切にしよう 発信する、受け取る力をすべてのこどもたちにつけたい。 職員室でできることを発信する（韓国のこと、教育DXのこと、特別支援のこと） 教室でできることを、こどもといっしょに考えて実践する（地元について学び、日本国内に、韓国に発信する）	国籍や文化が違っても、喜びや悲しみなどの感情は同じ。 身近な人に、遠く離れた人にも、自分のことを説明できるようになる。 変えよう！「こんな事やってもムダじゃない？」風土。私の訪韓はムダじゃない！と言えるようになる。 

活動の振り返り

このプログラムを通して、さまざまな日本語教員や韓国の教員とのつながりを持つことができました。校種や立場、担当教科の異なる先生方との交流を通じて、多くの学びがあり、さまざまな視点や各校での実践を知ることができました。

三聖女子高等学校とポモク小学校の訪問では、海外の学校で教えるという貴重な体験ができました。特に小学校で授業をすることは非常に新鮮で、印象に残っています。高校では、済州の文化を題材にした特別授業を見学しました。異文化を理解するためには、自己理解と他者理解が不可欠であり、共感や違いを受け入れる多様な視点が必要だと感じました。まずは、自分の住んでいる地域の良さを再認識し、自分自身を見つめ直すことが大切だと改めて思いました。小学校では、目標設定や伸ばしたい能力が明確にされており、「いつまでに何をするか」が「見える化」されていました。この取り組みは、自分の英語の授業にも取り入れたいと感じました。

済州4・3平和記念館では、済州の複雑な歴史について学ぶことができました。平和を誰よりも願った人々が、なぜこのような仕打ちを受けなければならなかったのかー平和について深く考える貴重な時間となりました。

また、済州の自然や食事、文化にも多く触れることができました。ホームビジットや交流会などを通じて、韓国の方々にとても親切にしていただきました。もし韓国の先生方が日本を訪れる機会があれば、同じように心を込めておもてなしをしたいと思います。

Action Plan

すぐに行うこと

- ・英語の授業を通して、生徒に本プログラムでの経験を伝える。
- ・英語科会や職員会で、本プログラムを通じて得た学びを共有する。

継続的に行うこと

- ・他校における国際交流の取り組みを調査する。
- ・生徒とともに国際交流の意義について考え、交流の目的を明確にしたうえで、継続的な交流を目指す。
- ・本校の国際教養科の生徒と韓国の生徒とのオンライン交流を実施する。
- ・本校で第二外国語として韓国語を学んでいる生徒と、韓国の生徒との交流を促進する。

振り返り～我々が出会ってから～



研修団が出会ったときから考えると、約2か月間の韓国研修を経て自分自身に大きな変化が2つある。

①日本中の先生との仲間意識の発生

日々、仕事をしていると目の前の仕事に追われ、自分一人で頑張っている感覚があった。しかし、研修を経て自分以上に努力をしている先生や関係者と出会い、仕事中、苦しくても他の頑張っている参加者を思い出すことで日々の教育活動に対するモチベーションが上がっている。

研修後も、食事やオンラインミーティングをすることで繋がっている。2学期以降、オンライン交流や文化交流を行うことが非常に楽しみである。

②韓国に対する意識の変化

日本と韓国の中には、植民地支配をしていた歴史や、第二次世界大戦中の歴史的摩擦、領土問題など多くの課題がある。しかし、そんな国家間の摩擦に関わらず韓国の人々は私たちに大変親切にしてくださった。

実際、韓国の先生にインタビューをする中で、慰安婦問題や領土問題など日本人の認識と違う部分も多くあることに気づいた。インターネット上では反日感情がある人が多い、といった情報もあるが現地の先生やホームビジットで訪れた家庭など研修中出会った全ての方が日本人に対して親切してくれた。

これは中学生に国際理解教育をする上で大変有意義な知見になった。国家間の問題と、民間の交流を別問題で考え、すべての人にリスペクトを表すことが真の国際平和に繋がるのではないかと考えた。



研修中、出会った全ての人に感謝を込めて。

活動の振り返り

① 学校訪問での文化授業を通じた日韓交流

本校の生徒が取り組んだ吹き流し制作を韓国的小学生にも体験してもらい、活動の様子を紹介することで、互いの文化に対する関心が高まり、つながりの芽生えを感じることができた。今後、韓国の児童が制作した作品を本校の生徒に紹介することで、さらに交流を深めていきたい。

② ホームビジット先での交流を通じたつながりの構築

本校の生徒が作業学習で制作した製品を韓国の家庭にプレゼントした。今後、その感想を生徒に伝えることで、作品を通じた心のやりとりが日韓の子どもたちのつながりを築くきっかけになると期待している。

③ 文化・歴史の比較を通じて見えた共通点

済州島のハラル山を訪れた際、日本の蔵王のお釜を思い出し、自然の神秘さや火山の力に共通するものを感じた。また、済州島の海女さんの文化は、岩手県の海女さんの営みに通じるものがあり、地域に根ざした暮らしや知恵の尊さを実感した。さらに、済州4.3事件の平和記念館では、沖縄のひめゆりの塔と重なるような悲しみと平和への願いを感じ、歴史を学ぶことの大切さを改めて考える機会となった。



アクションプラン

①職場の先生達に体験したことを報告する。

・職員会議で全体に概要を報告した後、希望者を集めて報告会を開く。プログラムで体験したことや考えたこと以外にも、買ったものや食べたもの、プログラムで出会った先生方との楽しい思い出なども紹介し、このプログラムのオンオフ全ての魅力を伝えて、職場の先生達が「参加してみたい。」と思えるような報告会にする。

②総合的な探究の時間で、今回のプログラムで体験したことを材料にした授業を行う。

・授業テーマ例「韓国のお茶菓子を味わおう」「韓国の友達とつながったよ」「韓国の学校ってどんなところ?」「韓国と日本の似ているところ、違うところ」

活動の振り返り



サムスン女子高等学校では、日本の美容やファッションに興味があるクラスで授業をした。生徒が、第二外国語である日本語を流暢に通訳していて、**外国語教育の充実**を感じた。また自分の興味に合わせた授業を受けることができ、**キャリア教育**も充実していた。

ポモク小学校では、日本の伝統遊びを体験してもらった。別れ際に泣いてくれた児童もいて、短時間でも言語が違っても心が通じ合うことができるのだなと感じた。

手作りのキムチは、白菜を丸ごと使い、食べる時にはさみで切るそうだ。キムチ専用の冷蔵庫があることや、トマトはフルーツとして食べること等、**食文化**の違いに気付いた。

小3の算数の教科書を見せてもらうと「선분(線分)」「각(角)」など日本と似ている言葉もあった。

子供達からウンノリ（윷놀이）という韓国の遊びも教えてもらった。

教育課題や交流授業について具体的に質問したり話合ったりすることができ、充実した時間になった。プログラム参加前は、交流授業には消極的だったが、対話後は「実施したい！」と気持ちが変化した。韓国の方方がとても前向きに交流を考えてくださったからだ。自分の気持ち一つでこんなにも世界と繋がることができるんだなと実感した。

まとめ 韓国や日本全国の先生方との出会いを通して、それぞれの地域に親しみを感じるようになり、ニュースを見るたびに自然と関心をもつようになりました！「心に平和の砦を築く」ということは、国や言葉の壁を超えて人と繋がり、心を通わせることから始まるのだと思います。

アクションプラン

1 校内の全職員への成果報告

時期：8月末の職員会議

目的：韓国の文化を身近に感じてもらう
→国際交流へ興味をもってもらう

内容：写真と共に体験を共有
ACCUの派遣プログラムの紹介

2 交流授業（オンライン）の実施

時期：2学期（9月から準備開始）

目的：国際理解を深める
→人と人が繋がる体験は心を動かす

内容：3年生の道徳（仁川星光小学校2年生）
日本→韓国（掃除の仕方・給食指導）
韓国→日本（エコ週間）



3 校内の児童に韓国を紹介

時期：2学期

目的：韓国の文化を身近に感じてもらう
→国際交流へ興味をもってもらう

内容：校内に韓国の文化紹介コーナーを設置
(遊び・食器・ハングル文字・絵本)
6年生の外国語（韓国の女子校生に
した質問の答えを伝える）

4 今回できた繋がりを これからもずっと大切にする

日本全国の先生方：実践共有しながら交流を続ける
韓国の方：交流授業を続けたり、韓国からの派
遣プログラムに参加し新たな交流を
作ったりしていく

お世話になったホームビジットの方：
力カオトークで韓国に行く際や日本
に来てもらう際に連絡を取る



全プログラムの振り返り



〈サムスン女子高校、ポモク小学校〉

公立学校でもIB教育が推進されており、暗記中心の教育や大学入試編重の課題対策として、思考力・表現力・国際的視野を重視した教育に転換しようとしている感じた。

教員の負担と専門性確保のために、分業制を徹底しているようであった。近年日本でも問題となっている「心の問題」に対応してカウンセラーが常駐していることも印象的であった。

施設面でも体育館のエアコン、グラウンドでのタータンや天然芝等の充実が見て取れた。

日本の文化授業をそれぞれで実施したが、どの子も日本文化への興味関心を抱いており、お互いに楽しい時間を過ごすことができた。小1の子どもで、お別れが切なくて泣きだした児童が印象的であった。

〈ホームビジット〉

小学校2年生の双子のお宅へ訪問した。学区外であるが子供にIB教育をさせたく、通わせているご家庭であった。両親共働きで日本の一般的なご家庭と同様で、アプリゲームを誘われたが、チャンバラやけん玉をして過ごした。

〈済州4.3平和祈念館、済州海女博物館〉

日本統治時代の反省等、日本人として真摯に受け止めるべき問題と臨んだが、世界大戦にこんな事件があり、語られることが無く40年も経過したこと驚きを感じた。また、壁一面に様々な手法による虐殺者の彫刻があり、胸を張り裂く思いをした。

その後の朝鮮戦争も相まって、男性働き不足により女性が過酷な海女漁を余儀なくすることとなった。現役海女の方のお話で、自分の子どもにはさせたくないと吐露していた。今後どうやって伝統産業を継続していくかを見守っていきたい。

〈文化芸術学院、職業体験センター〉

文化学院ではハングル文字でのカリグラフィ体験

職業体験では最新の機器を活用していたが、どこの国も進路指導い苦慮している様に感じた。

〈日韓教師対話〉

どの先生方も、話の節々から日々熱心に教育に取り組まれている姿勢を感じ共感を受けた。その姿からは、教育現場における大きな責任感と情熱、

そしてそれに伴う心身の負担も伺えた。



アクションプラン



〈私が担任するクラスで本プログラムでの経験を伝える〉

- ・日本の高校と韓国の高校との違い
- ・日本統治時代以外の平和教育、他県での平和教育現状。(自国を知る)

〈体育科教科会と職員会議にて本プログラムで学んだことの情報共有〉

- ・韓国でのIB教育や4.3事件等、現地に行って学んだこと。
- ・他県の先生方と過ごす中で、それぞれの地域の教育現状や先生方の工夫に触れ、自分自身の視野が広がったと感じたこと。

〈継続的な交流〉校内や近隣の学校等で韓国に興味がある生徒が交流できるようパイプ役となる

- ・何人かの女子高生に、交流相手として「日本の女子高生を紹介して欲しい」とお願いされた為、帰国後すぐに繋いだ。
- ・本校では修学旅行先に台湾。希望者には独自に、アメリカ、フィリピン、カンボジア、マレーシア等へ海外研修を行っている。今回、韓国研修での報告を通して、希望者がいれば、研修先に加えたい。

〈その他〉

- ・昇降口のポスターで研修の報告。新聞班や放送班(生徒会)の取材対応。PTA会報への寄稿等。



韓国の教員との出会いを通して感じた平和への希望



私は、韓国の文化や日本と韓国の歴史を社会科の授業で扱うことで平和を築いていきたいと思ってこのプログラムに参加しました。韓国の先生方と話をする中で、そうした思いはさらに強まりました。特に印象的だった出会いは、同じ志を持った教員に出会ったことです。彼女と一緒に食事に行ったのですが、たくさん話をする中で、私たちは「教育を通じて平和の文化を繋げたい」という共通の志を持っていることを知りました。海を越えた場所にも、同じ思いを持つ仲間がいることをしり、とても嬉しく感じました。その後、平和教育としてのお互いの授業実践を語ったり、今の課題意識を共有しあうことで、韓国との距離がぐっと近づいたような気がします。

教員として歴史を学ぶ中で、日本や韓国を含む東アジアの問題は複雑すぎるあまり、この絡まり合った糸を私たちの世代でほどくことは難しいのではないか、そう思うことも多くありました。だけど、このプログラムに参加して、「できるかもしれない」という希望をいただけたことが私としては大きな収穫でした。ここで出会った方々と協力しながら、平和の文化を広げていきたいと思いました。

多様な教育との出会い

IBの候補校であるボモク小学校に訪問したり、地域教育に力を入れているサムスン女子学校への訪問を通して、様々な教育の形を知ることができました。

また、日本全国から来ている学校の先生方との交流を通じて、新たな価値観や教育観に出会うことができました。教員3年目でどうやったら生徒達の好奇心が高まる授業ができるか？を模索している最中ですが、様々なバックグラウンドを持った先生方との授業づくりや意見交換を通じて、たくさんのヒントを得ることができました。この学びを自身の教育実践にもつなげていきたいと思うと共に、ここで得た学びを校内の先生方にも共有したいと思います。

アクションプラン

① 韓国と日本の高校生で「平和構築のための対話」を行うオンライン交流会を開きたい。

現在、学校で多文化共生を学ぶことを目的としたゼミを行っており、高校生12名が所属している。このゼミに所属する生徒達と韓国の高校生が交流する機会を作り、「東アジアの平和構築」「多文化共生」をテーマに、対話を行う機会を設けたい。

②韓国文化のワークショップ

HRおよび地理の授業にて、パワーポイントを使い、クイズなどを行いながら韓国の文化について紹介を行う。その中で、日本と韓国の文化の共通点と相違点を考える授業を行う。自分が撮影した韓国の給食や学校の様子、などの写真を見せながら、生徒に気付きを動かす授業を行いたいと思う。また、文化授業の時に、韓国的小学校の生徒に、手紙を書いてもらったので、その内容も共有したいと考える。

③教員研修での発表

教員研修にて、韓国の教育や国際交流の取り組みについて紹介する。特に本校が目指す「世界市民の育成」をテーマに、国際教育がそうしたスクールミッションにどのように繋がるのか、また国際交流をするうえでの課題についても教員間で話しを行いたいと考える。

④済州島の歴史を近現代史の授業で取り扱う。

11月に冷戦について取り扱う授業があるため、その中で済州島4・3事件の話をを行う。博物館で学んだことのほかに、8月に日本教員の方が済州島4・3事件について扱った「別れを告げない」の本の読書会を開いてくださるため、それに参加してさらに知識をつけたい。

活動の振り返り



ポモク小学校

- ・ 公立学校でありながら、IB教育の推進や多文化教育に力を入れていた。
- ・ 地域と学校との連携も活発で、コミュニティ・スクール構想の参考になると感じた。
- ・ 働き方改革も進んでおり、業務と教務の分業制や地域人材の活用、食堂での給食提供などにより、教員の業務負担が軽減されていた。



サムスン女子高等学校

- ・ 国際的な視野をもつ人材の育成や、探究的な学習、キャリア教育に力を入れていた。
- ・ 日本のアニメや文化に興味をもつ生徒が多く、これからは良好な日韓関係が築かれていくのではないかと感じた。
- ・ 生徒の多くが毎日22時近くまで学校に残って自習していると聞き、その熱心さに驚いた。
- ・ 校風は、日本の学校と比べると自由な雰囲気があるようと思えた。



済州4.3平和記念館・海女博物館

4.3事件については全く知らなかったが、今回の学びを通して、平和を守るために正しい歴史認識が重要であると強く感じた。海女は「強い女性」として知られているが、そうならざるを得なかつた歴史的背景についても知ることができ、理解が深まった。



日韓教師対話フォーラム

韓国のさまざまな校種や立場の先生方と交流することができた。日韓で協力しながら子どもたちの世界を広げたいと願う、同じ志を持つ先生方との出会いは、大きな励みとなった。



ホームビジット

訪問先の小学校の先生のお宅で、韓国の家庭料理をごちそうになった。同じ小学校の先生方数名も集まってくださいり、教員同士で仕事に関する話をすることができた。

アクションプラン

① 本校職員向けに報告会を実施する。

- 韓国的小学校教育の様子など本研修で見てきたことや学んだことを報告する研修会を開く。

② 児童向けに国際理解教育を行う。



- 4年生の全児童へ、総合的な学習の時間を使って、韓国的小学校の様子を伝える。
学校生活や文化の違いについて考え、異文化交流への興味関心を高める。
- ESD委員会の児童へ韓国的小学校の様子を伝え、ポモク小学校との異文化交流への興味関心を高める。

③ オンライン共同授業を実施する。

- ポモク小学校の5年生の児童とESD委員会の「子どもサミット」担当児童が中心となって、
10月～11月の期間でオンライン交流をする準備を進めている。
- 文化授業をしたポモク小学校の2年生の児童(17名)と4年生の1クラス(34名)とが手紙を送り合う
計画している。
- ソウル特別市教育局の国際共同授業へ応募し、簡単な英語でのオンライン交流を実施する。

振り返り

学校訪問

- ・IB教育を主体とした国際的な人材を育てるためのプログラムが画期的だった。子どもの興味、関心を育て、グローバルな視点が身に付く教育だと感じた。実際に、ホームビジットでお世話になったご家庭も、小学校の教育方針に魅力を感じ、済州島に引っ越してきたそうだ。
- ・韓国は、教育にかける国家予算がたくさんあり、校内の設備をどんどん新しくしたり、教師が本来の仕事に集中できるように人材を確保することは、とても羨ましくもあり、日本もそうあってほしいと願う。
- ・日本の学校には「もったいない文化」が根付いていて、給食を残さず食べることや、節電・節水する行いを大切にしている。韓国の学校では、そういう文化は薄れているそうだ。子ども達が自分の手で学校を清掃する活動なども含め、日本の文化の良さも感じられた。



教育機関訪問

- ・「クムキオレ進路職業体験センター」は、デジタル技術を使った職業体験が可能だった。将来の自分の姿を想像し、なおかつ自分の強みや適性を知ることができることが素晴らしいと思った。
- ・「西帰浦学生文化院」は、ミュージカル・ダンス・楽器・絵画・彫刻・デザインなど多岐にわたる習い事が無料で体験できる施設である。お試しから、努力しだいで国際レベルの力を身に付けることができる子ども達の才能を開花させてくれる施設である。日本では、所得格差で学校以外での体験を全くさせることができない家庭も多い。どの子にも平等にチャンスを与えることのできる施設だと感じた。



平和学習について

- ・「済州4.3平和記念館」で、長い間、語ることのできなかった集団虐殺・拷問の事実を知った。日本は、朝鮮を統治していた時代があり、決して他人事ではないと感じた。「平和の島・幸せの島」と呼ばれる済州の由来を自校の子ども達に伝え、自分事として平和について考えさせてていきたい。



韓日対話を通して

- ・「ボーダーを超える～自分の心の中の壁を超える、チャレンジしない自分を超えよう」という講話をしていただいた。38度線近くの高校に勤務している経験から国際交流について学ぶことが多かった。私も、「子ども達の心に平和の種をまく」教育活動を行っていきたい。

アクションプラン

①韓国での学びを全校児童と職員に伝える。

- ・2学期始業式に、職員向けに活動報告をする。
- ・9月の全校集会で、児童に向けて韓国と日本の文化の共通点や相違点についてクイズ形式で発表する。
- ・体育館前に、「韓国について知ろう」のコーナーを設置し、興味関心をもってもらう。

②高学年を対象に平和学習を行う。

- ・6年生の歴史の進度に合わせて、1月に「近代国家の歴史」の授業を行う。
- ・日本の教科書には掲載されていない、「済州4.3事件」にも触れ、自分事として考えさせる授業を行う。

③勤務校と韓国の小学校の国際交流の実現

- ・手紙やオンラインによる国際交流を模索する。現在4年生の学級を対象に計画を立てている。
- ・互いの学校紹介、地域紹介、ユニバーサルデザインや福祉（総合学習との兼ね合い）についても情報交換を行いたい。





韓国訪問の振り返り

・文化授業

高校では 日本の地域の違いを紹介し、小学校では給食を紹介したり、 七夕飾りを作ったりした (勤務校の生徒に書いてもらった短冊も持参)
授業は緊張したが、伝えようとする気持ちを大切にし、活動を共にする体験ができた。日本のアニメの力も実感。

・ホームビジット

文化授業の スライドを見せながら、少ししか話せない英語で伝えられた。

・済州4・3平和記念館

悲しい歴史の上に韓国の民主主義があることを、考え続けたい。

・日韓教職員フォーラム

韓国特殊学校の先生方と知り合えたことが大きかった。



アクションプラン 知的障害特別支援学校からDiversity & Inclusionな世界へ

① 8月25日（月） 勤務校の希望する教員に報告会を実施

教員に海外の教育にも興味を持つもらったり、自分も行ってみたいと思ってもらったりして、仲間を増やしたい。

② 教員間のつながりや交流を続ける。

勤務時間外にしている勉強会をオンラインで教員交流

釜山の特別支援学校の教員と連絡を取り合い、教員が相互訪問したい。

ACCUの来日した教員交流会に参加して、韓国で受けた恩を他の国でも返したい。

③ 知的障害特別支援学校でもできる交流を模索

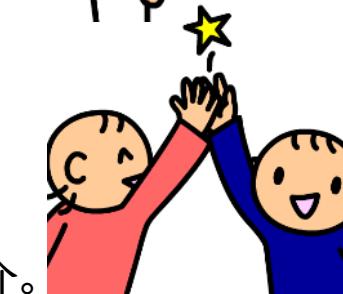
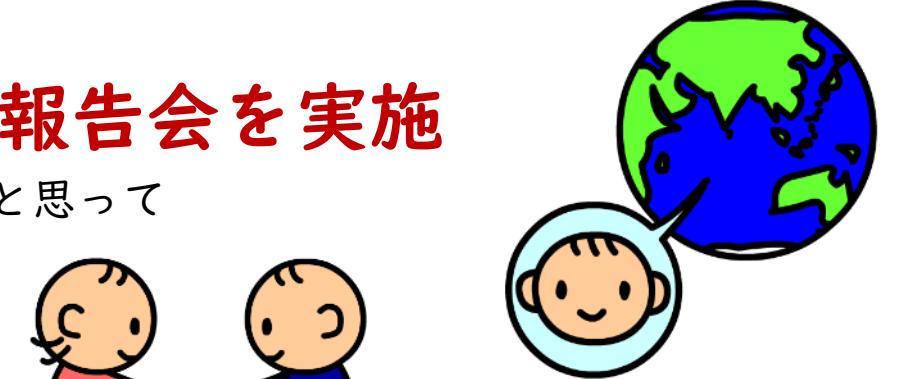
韓国訪問の掲示物を作成し、教室前の廊下に掲示。

国語の授業で標識を学ぶときに、駅名標の4か国語表示が増えていることを紹介。

オンラインでも、言葉による意思疎通の壁を越える方法を探して試す♪

⑤ 韓国など諸外国の特別支援教育について学び続ける。

| 2月20日（土）に行われる、特別支援教育総合研究所の国際シンポジウムに参加する。



振り返り

小学校・高校の訪問

学校の訪問・交流・授業を通して、

韓国の学校教育現場を知ることができた。

→国を問わない、教育における課題と希望を見出すことができた。



済州4.3平和記念館の訪問

韓国済州を知る上で外すことができない施設を訪問した。

→語らないことによる加害という、

時代や国を超えた問題を改めて考えさせられた。



日韓教職員の対話

日韓の学校教育現場における課題点について語り合った。

→済州4.3事件についても対話をし、

恒久平和に向けての教育現場での取り組みを考えるきっかけとなった。

総括：日本の教育現場で平和・国際協調を推し進める実践をしたいと強く思わされた。

アクションプラン

①研修内容の報告

勤務校の生徒・教職員向けに今回の研修内容を報告する会を実施する。

報告会では単に同研修の取り組みを紹介するだけでなく、韓国に留学した卒業生による講演や、韓国にまつわるクイズ・ゲーム大会も合わせて行うことで気軽に参加できるようにして多くの人に研修について伝えられるようしたい。

②読書会の開催

今回の研修で一番印象に残った済州4.3事件についても描かれた、ハン・ガン「別れを告げない」の読書会を日韓教職員が参加できる形で実施する。

研修で出会った教員たちと継続的に平和について対話できる機会としたい。

③ユネスコスクールへの応募

今回の研修で、より一層国際教育の意義を感じることができた。

日々の学校生活に国際協調や平和の視点を入れ込むために、ユネスコスクールに応募をして、多様な実践をしたい。

【I】振り返り

● ホームビジット

夕食をふるまって下さり、近くのカフェでお茶もしました。ご両親が日本にとても詳しく、話題は、子供の教育や流行など多岐に渡りました。ホームビジット以外でも、街中で「日本人ですか？日本に行ったことがあります」「日本で優しくしてもらつた」と、声をかけて下さる方が多く、大変親切にして頂きました。今回頂いた温かさを、私も返していきたいです。

● サムスン女子高校

生徒のほぼ全員が日本のエンタメとサブカルに詳しく、難しいクイズを用意したつもりでしたが、すべて簡単に答えてしまうほどで、本当に驚きました。勤務校の生徒も韓国文化にはとても詳しく、その情熱にはいつも驚かされます。楽観的かもしれません、「未来の日韓は『両思い』しかない」と信じさせてくれました。

● ポモク小学校

子供たちのエネルギーに圧倒されながら、日本の学校紹介、折り紙、福笑いなど、紹介することができました。補助の先生もついて、少人数で、大変きめ細かい配慮が分かりました。

● 世界自然遺産センター、4・3平和記念館、海女博物館

地域住民と専門家が連携しながら自然保護に取り組んでいる姿勢は、示唆的であり、自然遺産を題材とした授業や、日韓の生徒同士による環境保護をテーマにした交流活動などを構想していきたいと思います。「知る」だけでなく「守る」「伝える」という視点を教育現場に持ち帰る大きなヒントとなりました。学校訪問で先生がおっしゃっていた「グローバルな視点とローカルな実践」という言葉をまさに感じました。

【2】アクションプラン

今回の研修の報告

- ・8月中に本校国際コース（海外に興味のある生徒の集まるクラス）にて報告プレゼン実施。
- ・さらに、下記の講座内にて追加セッションを行う

韓国の高校との姉妹校提携／韓国語と韓国文化の講座開講

2025年

現在、両校の担当者が密に連絡を取り合い、下記の計画を着実に進めている。

- ・8月 オンラインで交流会とカルチャーボックス交換を実施
- ・9月より校内で「放課後韓国語レッスン」を開始（講師は決定済）
- ・12月 先方の管理職がお越しになり、調印式を行う。

2026年

- ・1月 相手校から本校への研修団受け入れ
- ・3月 本校から相手校への研修団派遣
- ・4月 韓国語講座のまとめとして、生徒による報告プレゼンを予定
- ・4月 希望者は「韓国語能力試験」受験
- ・5月 韓国人学校より講師をお招きして韓国セミナーを実施（講師決定済）

活動の振り返り～今回のプログラムで学んだこと～

- ・学校訪問で学んだこと
「安心できる場所」において、「アクティブ・ラーニング」は可能だということ。
- ・ホームビジット 保護者の学校に対する信頼。子どもが、「学校が楽しい」と言っていることが何よりも学校の信頼につながっている。

I. 今後の進路指導のありかた

AIの導入によって49%の仕事がなくなることを受けて
→生徒たちに対する新しい指導を考えるのが「わたしたちの責任」である。
・教育とは「考えるきっかけ」を提供することではないか。

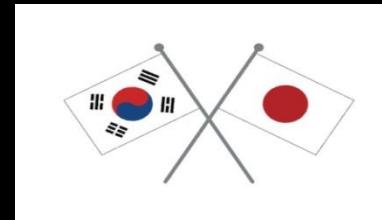


2. 歴史教育について
・「証言」の重要性。
・「された」ことから「したこと」に目を向けていくことの大切さ。

3. 自然との共生
・自分の「からだ」から「自然」をとらえなおす。

アクション・プラン～特別支援学校の国際交流～

①オンライン授業をとおした生徒間交流



異文化を知ること、自分/自国を知ること → 自分の「見方」を広げる

②(オンラインでの)指導・支援のありかたをめぐる教師間の対話

課題の共有・対応の共有 → 自己省察と発展のきっかけにする。

③生徒引率による短期留学/訪問

リアルな体験による知見の獲得・国際性の育成を行う。

韓国（済州島）研修 振り返り

1 学校訪問を通して（サムスン女子高校とボモク小学校）

事前学習を通して韓国の教育事情を知ることができ、教師の働き方や教育の在り方について、文化的に日本と似ている韓国だからこそ学びが多いと分かった。現地ではユネスコスクールのサムスン女子高校や、IB教育を実践するボモク小学校を訪問し、韓国の教育がいかにグローバルな視点を重視しているかを実感した。日本人教師の授業にも関心を持ち、日本語や英語で積極的に話しかけてくれる生徒の姿が印象的で、日本への関心の高さも感じられた。また、歴史の授業では、国ごとの教科書の違いをもとに多角的な視点で考える取り組みが行われており、日本の学校でもこのようなディスカッション型の授業の必要性を強く感じた。

また、ホームビジットでも温かい歓迎を受け、心の交流ができたことは忘れられない思い出となりそうだ。



2 文化施設訪問を通して

多くの学びと日本への示唆を得る機会となった。たとえば、習い事や部活動を地域に任せる仕組みや、現役の海女さんの話から学ぶ海女文化の継承など、地域と文化の結びつきの深さに感銘を受けた。中でも最も衝撃的だったのは、済州4・3平和祈念館の訪問である。一部、日本に関する説明が省略されていた点は気になったが、済州の悲惨な歴史を知り、島民の思いに触れる貴重な体験となった。

3 全体を通して

日韓教師対話では、共通の教育課題に直面していることが分かり、深い共感が生まれた。両国はより友好的に交流すべきだと強く感じた。また、済州のみかんが給食に出ることや和歌山との姉妹都市関係など、過去と現在のつながりから、今の教育が未来をつくるという教育者の使命の重さを実感した。



アクションプラン

1 生徒への還元

総合的な探究の時間でプレゼン

- ・国境38度線近くの学校の現状
- ・世界に飛び出す準備をしている
- ・「幸せな学校」で目指すみんなの幸せ

英語の授業において、韓国派遣体験を教材化

- ・歴史背景を踏まえて発展した文化・産業について
- ・多角的視点でのディスカッション



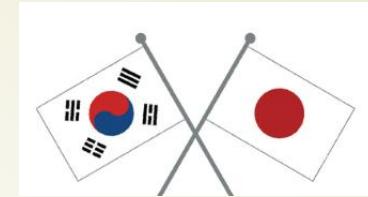
2 教職員への還元

職員研修でのプレゼン

- ・学歴社会といわれる韓国において、韓国の人々が今日指す「幸せな学校」とは
- ・人口絶滅危機にあった済州島を救った「学校」
- ・多角的な視点のグローバル教育の勧め
(ユネスコスクールやIB教育について紹介)

3 国際交流事業の継続と発展

- ・国際交流事業の教育的価値を他教員と共有
- ・上海の高級中学（高等学校）との交流をより有意義なものとするための仕掛け
- ・インド教職員の招へい事業に向けて、内容を再検討し、充実したプログラムにできるよう準備



活動の振り返り

【学校訪問】

サムスン女子校、ポモク小学校ともに国際交流を積極的に行う学校で、児童生徒の意欲的な様子や学校の熱心な取組を見学することができて貴重な時間になった。特に教員の働き方についてや学校経営、放課後教育についての話は大変勉強になった。

【文化授業】

ポモク小学校の6年生を対象に日本のマンガとゲームを題材とした文化授業を実施した。日本の文化について積極的に学習しようという態度が感じられたことに加え、主体的にコミュニケーションを取ろうという態度に感銘を受けた。

【施設見学】

済州4.3平和記念館をはじめとした「済州島」の歴史を知る上で重要な施設を見学することができ、大変勉強になった。現地に足を運び、知ろうしたいと知ることのできない貴重な学びを得る事ができたと思う。

【日韓教師対話】

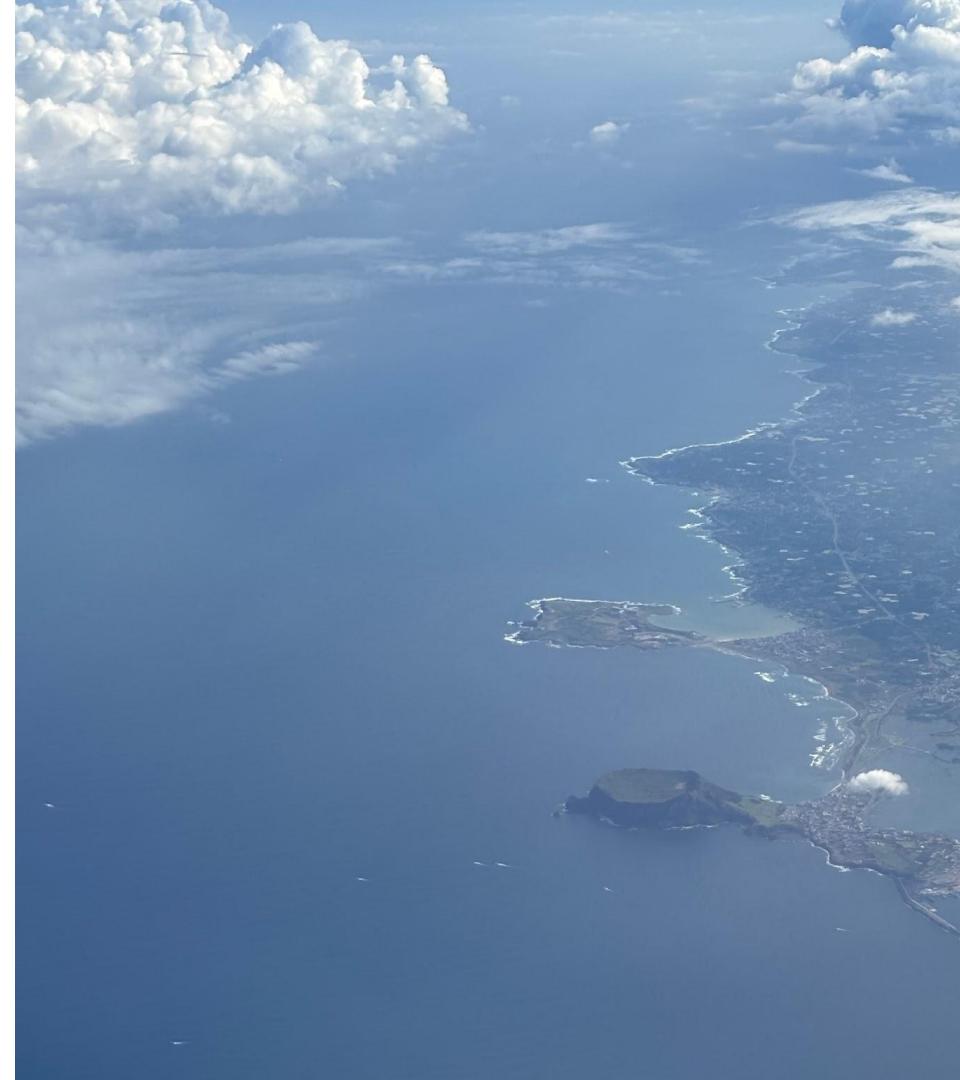
教員の働き方や日韓の教育現場について、そして平和教育について、席を同じくした先生方と考えを交流でき、貴重な時間となった。今後も交流を続け、日韓交流の架け橋となれるよう、アクションプランの実施、そしてその後の活動につなげていけるように、今の気持ちを忘れずに持ち続けていきたい。

アクションプラン

- ①本校教職員向けの報告会の実施。
※勤務校と近隣校を対象に計2回
(韓国的小学校教育について、本研修
での経験を共有する。)

- ②国際理解教育に関連した授業の実施。
(韓国の学校の様子や、文化について
紹介をするとともに、既存の教育課
程に関連付けた授業を実施する。)

- ③オンライン共同授業を実施する。
(本事業を通して教育コミュニティを
広げ、韓国的小学校と本校の児童が
オンライン上で交流する機会を作る。)



学校訪問

活動のふりかえり

今回のプログラムでは、高等学校と小学校で日本についての授業を行った。異国の子どもたちとコミュニケーションをとることの楽しさを感じ、とても貴重な時間となった。学校内も見学し、教師の働き方や教室の違いなど実際に見て学ぶことができた。生徒たちの楽しそうな笑顔や教師の優しさは、国が違っても同じように感じた。

ホームビジットでは、韓国的一般家庭の様子を見ることができた。韓国料理を用意していただき、チエジュ島の名物や学校の取り組みなど保護者目線で話を聞くことができた。学校と地域、家庭がつながる取り組みを多く取り入れ、保護者も積極的に学校行事に協力している姿が見られた。

施設見学

プログラム中にクムキオレ進路職業体験センター、西浦帰学生文化院、済州世界自然遺産センター、済州4・3平和記念館、済州海女博物館に訪れた。済州の学生たちは無料で行くことができ、学生に寄り添った最新の施設や学力以外の文化的な取り組みをしていることが分かった。平和記念館では、済州で起きた悲しい歴史について学んだ。過去から何を学び、未来に生きる人たちに何を伝えていくことができるのかを考え、行動することが大切だと感じた。

日韓教師対話

日本と韓国の教員と話す時間がたくさんあった。互いの国の違いを否定せず、理解し合う姿勢で話し合うことができた。これからの日本と韓国をつなぐ活動を、どのようにしていくべきか様々な意見を出し合って、ともに考えることができた。出会いから学ぶことの重要性を感じた。



2025日韓教師対話プログラム振り返り

プログラム中の特に印象に残った学び2点

①教育現場視察(小学校・高校)

サムスン女子高校及びポモク小学校を訪問。授業も実施し、学生たちと関わることができた。韓国語で会話をすると、学生は緊張している様子から和らいだ表情に変わった。相手の母国語で話すことが異文化理解につながるのではないかと感じた。今後も日韓交流を継続し、それぞれの学校の特色を知り、お互いの強みと弱点を共有できれば、双方の教育目標の実現に寄与できると考える。

②済州4.3平和祈念館

日韓関係を考える上で避けては通れない歴史的軋轢。約70年間もの間、口に出すことも許されなかつた済州島四・三事件。1947年、単純な抗議の集会のはずであったが、警察側が群衆に対して警察署の襲撃と勘違いから決めつけをして厳しく弾圧する。その後も警察側が罪もない市民を虐殺し、市民側も反撃するが事態は深刻化していき、最終的には焦土作戦により済州は地獄化し、犠牲者は3万人以上に至る。そのあまりにも残酷な事件は、語ることさえもタブー化され、苦しみを隠しながら生きる人でいっぱいであった。虐殺の事実が長い間隠され、むしろ正当化する動きがあったことに胸が引き裂ける思いである。現代において過去の歴史を正しく理解・継承し、未来を描いていくことが大切であると考える。

アクションプラン

①本プログラムの報告

1. 職員へ報告(会議で実施)
2. 生徒へ報告(ポスター掲示)

②日韓交流校の開拓

プログラム中の日韓教員交流会の際に簡単な打ち合わせ済み

③日韓高校生のオンライン交流

進行中(現在相手校とスケジュール及び交流テーマを調整段階)

④日韓高校生の対面交流

オンライン交流を実施後、3年以内には対面交流に繋げたい。(許可次第)

⑤日韓姉妹校提携と交流活性化

対面交流実施後に定期的な交流を継続するべく姉妹校提携を結びたい。
より密接に交流ができればデリケートな平和学習も深まる目論見である。





今回の活動の振り返り



1 文化授業

三聖女子高等学校では寄席文字を文化授業で行いました。私のつたない韓国語をうなずきながら聞いてくれた高校生の姿に感謝しかありません。寄席文字を書く書道の体験を行いましたが、皆とても上手に取り組んでいて感動しました。また、日本語での自分の名前の表記がとても気になつた様子でそれを教えるなどして盛り上がりました。

甫木小学校では、日本の小学生の様子や日本の小学生が行っているゲーム、遊びを体験する授業を行いました。私は小学校の様子はよく知らないのですが、きっと日本の小学生と同じように盛り上がったのだろうと思います。福笑いや折り紙メンコでも遊びましたが、少し難しかったところもありながら皆楽しんで授業を受けていたことが印象に残っています。

どちらの学校でも授業を楽しみにしていてくれて、日本に対しての興味もたくさん感じられて大変嬉しく思いました。そして、だからこそお互いに良い気持ちで交流ができたのだと思います。この相手に対する興味というところが交流には重要であると実感しました。

2 ホームビジット

今回、初めて韓国のご家庭にお邪魔して夕食をいただきました。韓国に旅行に来ても味わうことができない家庭料理を味わえて、貴重な体験をさせていただきました。何より、私たちを歓迎してくださる気持ちが嬉しく、良い体験となりました。韓国のご家庭でも教育への関心が高く、私たち教員の立場まで心配していただいたことで、教育界の問題意識が社会的に広がっていることを実感しました。



3 韓国の教員との交流

今回の研修ではたくさんの韓国の先生方と出会いました。様々な立場の方がいらっしゃいましたが、それぞれの立場から良い教育を目指されていることが分かりました。日本の先生方のいろいろな考えにも触れることができて、自分の視野を広げることができたと感じました。



アクションプラン



① 今回の研修の成果を教員に共有する

2学期の現職研修の時間をいただき、今回の研修で学んだことを報告します。韓国との文化の違いや共通点を紹介し、教員にも交流の一部を味わってもらい、今後の交流活動に協力していただける方を増やすことを目的とします。

② 今回の研修の成果を生徒に共有する

今回の研修で学んだことを生徒に報告します。現在、オンラインで韓国の高校との交流活動を行っていますが、参加希望者が年々減ってきています。今回見て来た韓国の様子や高校生の様子を共有することで少しでも韓国や国際交流に興味をもって、活動に参加したいと思ってもらえることを目的とします。

③ 現在行っている韓国の高校とのオンライン交流を活発なものにする

今回、交流した先生方との話し合いの中で、やはり交流で盛り上がる話題は、食べ物や音楽、ファッショなど生徒たちに身近なものが良いということでした。そのため、現在行っているオンライン交流では身近な話題を中心とし、交流方法に工夫を行うことで盛り上げていこうと考えました。



振り返り

▶ 学校訪問

他の日本人の先生方と協力しながら授業を行う中で、楽しく、また非常に貴重な経験ができたと感じている。サムスン女子高等学校では、現地の高校生が日本のことによく知っていることや日本語の語学力にも驚かされた。ポクモ小学校では、日本の小学生の生活や漫画・ゲーム、七夕などを紹介し、児童たちの遊びへのエネルギーを感じた。授業をすることで、こどもたちの日本への興味を肌で感じ、未来の日韓関係は良好に築けるのではと感じた。

▶ ホームビジット

ホームビジット先のご家庭では、お茶や家庭料理をいただいた。ご家族の温かさや親切さに触れ、心に残る体験ができた。

一方、翻訳アプリを通してコミュニケーションは可能ではあったものの、話題の流れの中で、その場で瞬時に聞きたいことや話したいことを表現できないもどかしさを感じ、もう少し韓国語を事前に学んでおくべきであったと感じている。

▶ 日韓教師対話25周年記念教師フォーラム

韓国の教育制度について、実際に働いている先生方から話を聞くことができ、韓国の教育制度や教育予算の大きさを知ることができた。また、韓国の先生方と同じ悩みや葛藤を共有する中で、「同じ悩みを抱えながら努力している先生が、韓国にもいるのだな」と実感し、それが大きな励みとなった。

さらに、通常は難しいと感じられる交流校の提案についても、直接その場ですることができ、学校間交流のチャンスを得ることができた。

▶ 済州4・3平和記念館訪問

この事件についての知識が全くななく、記念館訪問が知るきっかけとなった。白く冷たく見える白碑から、語ることが許されなかった歴史の悲しみや苦しみ、名前を付けられないという現実の重さや難しさを感じることができた。平和を築くために、自分ができることは何だろうかと考えさせられた。

Action Plan

1

本プログラム報告

・職員に向けて

職員会議にて、今回のプログラムで得た学びと今後の取り組みについて共有する。その際、交流そのものの重要性を強調し、それを実現するためには先生方のお力が不可欠であることを強く伝えたい。

・生徒に向けて

担当している授業の中で、韓国の文化や学校の様子を共有する。また、私たちが授業を行った際に、韓国の生徒たちが日本についてよく知っており、日本に対して興味を持っている生徒が多かったことなども伝えたい。知ることや交流することの重要性についても伝える。

2

生徒会での交流

・今回のプログラムに参加するにあたり、生徒会の生徒たちから質問を受けていた。それに対する回答をいただけたため、これをきっかけに生徒会という枠組みでの交流をまずは進めてみたい。

・本校の他の先生が進めている芸術分野での文化交流があるので、そのつながりを活かし、生徒会での交流が可能かどうかを模索したい。

(日韓教師対話25周年記念教師フォーラムで担当の先生ともお会いできたため。)

活動を振り返って…

①「平和」とは 「戦争」とは

4・3平和記念館でも、海女博物館でも日本が統治していた時代の話を耳にした。また、訪れた小学校に建っていた銅像についても何かと尋ねた際にも日本の統治が関係していた。私が安易に、何が正しくて何が間違っていたのかを口にすることはできないが、何だか悲しく申し訳ない気持ちになったのは事実だ。そして改めて二度と戦争なんてしたくないと心の底から思った。今回の訪問で私は韓国がもっと好きになった。それは、この1週間で出会った素敵なお人たちのおかげだ。「平和」とは難しいものではなく、このような人と人との関わりから生まれてくるものだと感じた。「韓国人」「日本人」としてではなく、一人の「人」として関わりを深めていくことが、平和な未来を作り上げていくのだと確信した。

②言語の大切さ

私の専門の教科は、外国語(英語)だ。昔、同僚に「これから先、翻訳できる様々な機器が登場するだろうから英語なんて別にできなくてもいいのではないか?」と言われたことがある。もちろん、ただ旅行をする際に自分の主張を店員さんに伝えるくらいならそれでもいいだろう。でも、翻訳アプリや翻訳機器を通してのやりとりでは友達にはなれない。世界の様々な言語を習得することはできないが、世界共通語である英語でのやり取りができれば、基本的な意思疎通を図ることはできる。そこに小学校段階から英語を学ぶ大きな意義があると身をもって感じた。この経験を子供たちにも折に触れて伝えていきたい。訪れた高校では日本語を話せる生徒がたくさんいた。町中にも簡単な日本語を話せる人がたくさんいた。自分の母国語を話せる人に出会うとうれしい。韓國の人ともっと仲良くなりたいので、私はこれから韓国語の勉強に励みたいと思う。



アクションプラン

①勤務校にて職員を対象に報告会を開く。

- ・韓国の中学校で学んできたことや、日本の学校と韓国の中学校の違いについて。また、そこから感じた日本の良さについて
- ・私が現地で感じたことや考えたことの共有

②児童への報告を行う。

- ・担任している6学年の児童対象に、上記したような内容をより簡単にし、伝える。
- ・総合的な学習の時間を活用し、今回知り合った複数の韓国の学校との交流会を行う。1対1で行う予定の学校もあれば、韓国の中学校1校対日本の学校2校で行う予定もあるので、韓国のことを探ると同時に日本の他の地域の学校にも関心を高められるような取り組みを計画していく。



ふりかえり

①韓国の先生方との対話

・お互いの学校の様子や課題を共有し合うことで、勤務校で取り入れたいことや日本の教育の良さに気づくことができた。教育だけでなく、兵役や日本統治下の痛ましい名残などを教えていただき、「日韓の友好関係の礎となるのは、対話である。」と強く認識した。

②韓国の方々とのふれあい

・学校訪問での子どもたちとの授業、ホームビジット、街中散策などを通して、多くの現地の方とふれあうことができた。みなさんのがたたかさ、優しさ、気遣いをたくさん感じることができた。

アクションプラン

①勤務校で教職員向けに報告会を開く。

- ・韓国の現地校で学んできたことや、感じたことを教職員と一緒に共有する。
- ・これから学校として、国際理解教育や人権教育をどのように進めていくかの方向性も確認したい。

②子どもを対象に、授業や報告会を開く。

- ・夏休み明けに、「先生が学んだこと」として放送全校朝会で発信する。
- ・3年生向けに、国際理解教育をすすめていくため、コラボ授業を企画する。
- ・韓国の文化や言葉、遊びなど身近なものから、日本と同じところや違いを感じさせる。
- ・現地校と勤務校をオンラインでつなぎ、交流を深めていきたい。

③在日部会の集まりに参加する。

- ・これまで、そしてこれからも、学びを深め、広げ、次につなげていくために、積極的に集まりに参加をする。

活動のふりかえり

＜学校訪問＞

今回のプログラムでは、高等学校で日本の伝統文化についての授業、小学校で日本の体育の授業を行った。韓国の子どもたちと対話しながら日本について興味をもって聞いて楽しんでもくれてとてもうれしかった。授業後のアンケートでも子どもたちが一学期に楽しかったこととして「日本の先生たちと授業したこと」と書いてくれたことを聞いてさらにうれしくなった。

＜家庭訪問（ホームビジット）＞

小学生のお子さんのいる韓国の先生のご自宅に訪問させて頂いた。手作りの韓国料理、トッポギ、チャプチェ、チヂミ、キンパ、キムチなどたくさんの料理のおもてなしをして頂いた。韓国の家庭での様子や教育のことなどについてたくさんのお話を聞いて頂いた。帰りには、韓国のりと韓国の餅のお菓子のお土産もいただきとても温かい心遣いを感じた。

＜日韓教師対話＞

日本と韓国の教員と話す時間がたくさんもてた。韓国の先生が積極的に交流を望み、日本に対する友好的な思いと熱意をもって対話してくれたことに感動した。日本と韓国はこれからも互いに協力し合って友好関係を結んでいくことを確信した。日韓両国の子どもたちが交流できるように教師側がつなぎ役となって積極的に交流を進めていこうと思う。

フォローアップ

＜報告会＞

教員向け報告会：9月9日（火）16:00～16:15（校内OJT）

児童向け報告会：9月クラスでスライド発表

＜掲示＞

3年生教室廊下前にて研修写真・動画QRコード掲示

＜授業＞

日本と韓国との動画とパドレットによる交流学習。

日時：月一回（7月第一回実施済み、9月第二回実施）

対象：日本（小学校3年生）、韓国(小学校5年生)

内容：好きなアニメ・マンガ、好きな食べ物、流行っているもの、学校生活について

韓国と日本の友好・平和をめざす
楽しい交流をします。

活動のふり返り

- ▶ ①学校訪問（サムソン女子校・ポモク小学校）
 - ▶ サムソン女子校は「真実で誠実で創造的な人材のゆりかご」がビジョンの学校で、道徳人・健康・未来・世界・創造者がキーワードの学校経営を行う。第2外国語に日本語を選択する生徒が多い等、国際交流や探究的な地域・伝統・美術・和菓子作り等の学習に取り組んでいる。
 - ▶ ポモク小学校は「自ら、そして共に探求しより良い世の中のために貢献する（甫木の子ども）」がビジョンの‘済州型自律学校’（IB校）である。①探究型授業と評価②人間性教育の強化③未来に備える能力の強化教育④安全で健やかな学校環境の構築⑤地域と共に存する教育環境の構築を柱に学校経営を行っている。



②韓国教職員交流

日韓教師対話フォーラム

このテーブルで出会った韓国の様々な校種の先生とアクションプラン等の交流や現任教職員との活動の交流を行い、連絡先を交換できたことで、帰国後のアフターフォローへと繋ぐことができた。今後、子どもたちの日韓交流の「架け橋」となる先生と「出会えた」ことは貴重な財産となり、持続可能な交流を続けたい。



③文化施設の視察や韓国文化体験

- ▶ 済州4.3平和記念館や海女博物館は、まさに韓国「済州島」の歴史を肌で体験することとなった。韓国「平和」への思いも、正しい歴史認識から更に、利他主義（相手を立場も考えて）という未来平和構築型へと、私たち教師が協働していくことの大切さを認識させられた。ホームビジットでは韓国の家庭料理の体験やご家族のお話、済州島のお話など「親切さ」に触れ、増え韓国が好きになった次第である。

アクションプラン②

- ▶ ①日韓国際交流の実現（サムスン女子校・ポモク小学校・マンデ小学校）
 - ▶ サムソン女子校とは北海道函館白百合学園との国際交流復活(～2023年まで実施)

函館白百合学園とサムスン女子校研究部長とのパイプ役として学校間交流の再構築を模索する。サムソン校の学校長の承認で具体的に日本語担当教諭と交流内容を検討する
白百合学園には3年生のW.I.I.Bプログラム「韓国文化選択コース」があり、オンライン交流の実績がある。
韓国ユネスコ国内委員会本部・ネットワーク事業室の支援を得て事業の再構築を目指す。
 - ▶ ソギッポ市ポモク小学校4年生（14名）との交流

文化授業実施クラスの韓国児童と「ペンパル交流」の予定だったが、担当者変更により本校・及び本中学校区コミュニティー・スクールとの日韓交流の予定。本校「スポーツ・カルチャークラブ」（4～6年生[課外]）及び他小規模校とのパイプ役として国際交流の実現。
 - ▶ ウォンジュ市マンデ小学校5年生（15名）との交流（現在学級担任レベルでの国際交流中）
 - ①ファーストコンタクト（動画交流で出会う）（好きなアニメやお菓子の話交流）8. 26の予定
 - ②セカンドインパクト（ペンパル文通やプレゼント交換など、質問や昔の遊び～動画～交流）
 - ③サードアセンション（相手校アクションプラン協働へ「環境・食」<お米>韓・日・タイの対話探究へ）本校総合
- ▶ ②各種報告会の実施「ディスカバーJeJu」（発見する・見つける・明らかにする）
 - ▶ 韓国「済州島」の生活文化・食・自然・歴史・教育を（ひと・もの[施設]・こと等）のカテゴリーに分け、各種関係機関にて報告会を実施していく。（市町校長会・教頭会・国際理解教育研究会・サークル等）

活動の振り返り

①学校訪問

本プログラムでは高等学校、小学校にて日本の文化に関する授業を行った。どちらも日本の学校と重なる点が多くみられた反面、違いがより際立って感じられた。まず児童生徒の学習に向かう姿勢が前向きで、積極的に参加していたことが印象に残っている。特に外国語の練度が凄まじかった。済州島は観光地として外国人の人々も多く来るのだろう。だからか必要感をもって勉学に励んでいるように感じられた。何より、社会に貢献しようという意識を育て、それに見合った機会を多く学校側が与えていることに感銘を受けた。

次に印象に残っているのは学校と地域との連携についてだ。ホームビジットでチェジュのご家庭に訪問させていただいた。そこで聞いた話では、所属長が先頭に立ち、積極的に家庭と連携を図っていると聞いた。家庭の助言で学校をより過ごしやすいものにし、より子どもが活躍できる機会を与えることに関してのバイタリティが日本とは段違ないと感じた。韓国でのそれらの方法と理論をこれからも探っていきたい。

②遺産訪問、施設見学

チェジュの豊かな自然を目の当たりにし、感動を覚えるとともに、それらを残し、維持しようとする意識を強く感じられた。施設見学では、子どもに質の高い教育の機会を与えるために、AIを使った進路相談、VRを使った職業体験などが見られた。また4.3平和記念館や海女博物館等では、過去起こったことを細かに伝え、今を考えさせ、未来に伝えていくこうとしていた。

③対話

両国交えて様々な話をすることができた。帰国後どのように交流を続けていくか、学校の様子、児童の様子など、日ごろの学校の愚痴までお話を聞くこともできた。VUCAな世の中でも教育の根幹は共通で、国境を越え、手を取り協力していく姿勢が大切なだと強く感じた。

フォローアップ活動計画

①韓国での活動の報告

勤務校の児童や保護者、教職員を対象に、韓国の文化や教育についての同異を伝え、相互理解を図る。

②勤務校とのオンライン交流

勤務校の児童と互いの国の文化や1日について紹介し合うなど、簡単な交流をし国際理解を図る。

③手紙での交流

お互いに紙媒体やICT機器を活用し、自分たちの遊んでいる場所や普段買い物する場所などの日常を紹介したり、普段の学校生活の悩みについて紹介したりして、交流する。